

令和7年度第4回静岡県産業教育審議会

日 時 令和7年9月5日(金)
午後2時から4時まで
会 場 静岡県男女共同参画センター501会議室

次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
静岡県教育委員会 教育部参事
- 3 事務局説明
 - (1) これまでの審議のまとめ
 - (2) 本日の協議について
- 4 協議
 - (1) 論点①
「育成したい生徒像」とその育成に必要な学び(方向性)のまとめについて
 - (2) 論点②
「育成したい生徒像」、「育成したい生徒像に必要な学びの方向性」を踏まえた今後の専門高校及び専門学科の在り方について
- 5 その他
- 6 閉会

静岡県産業教育審議会委員

任期：令和7年1月1日～令和8年12月31日（2年間）

（50音順 敬称略）

No.	氏名	役職	備考
1	飯倉 清太	特定非営利活動法人NPOサプライズ 代表理事	欠席
2	上野 雄史	静岡県立大学経営情報学部経営情報学科 教授	
3	江頭 綾子	ヤマハ発動機株式会社 執行役員 ソリューション事業本部長	欠席
4	奥田 都子	静岡県立大学短期大学部社会福祉学科 准教授	
5	川田 善正	静岡大学 電子工学研究所 教授	会長
6	岸田 裕之	静岡ガス株式会社 代表取締役 取締役会長	副会長
7	齋藤 寛	東海大学海洋学部 学部長	オンライン
8	新林 章輝	静岡県立静岡農業高等学校 校長	欠席
9	豊田 由美	特定非営利活動法人スマイルベリー 施設長	欠席
10	西村やす子	株式会社 CREAMFARM 代表取締役	
11	村木 則予	株式会社アトリオン 代表取締役	
12	横田 茂永	静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 学科長	

資料 2

令和 7 年度 第 4 回産業教育審議会 出席者名簿

専門高校代表校長（専門部会長）

所属	役職	氏名	部会名
県立田方農業高等学校長	校長	久保田 豊和	農業・水産部会
県立科学技術高等学校長	校長	大澤 貢	工業部会
県立静岡商業高等学校長	校長	松浦 真一郎	商業部会
県立富士宮東高等学校長	校長	鈴木 香	家庭・福祉部会
県立焼津水産高等学校長	校長	沼里 智彦	共通部会

教育委員会事務局

所属	役職	氏名	備考
教育委員会	教育部参事	中山 雄二	
教育政策課	課長	白土 達夫	
教育D X推進課	課長	櫻井 澄人	
財務課	課長	上原 啓克	
教育施設課	課長	横田 恭子	
高校教育課	課長	中村 大輔	
	人事監	野田 正人	
	指導監	貝瀬 佳章	
	学校づくり推進室長	小粥 康之	
高校教育課学校づくり推進班	班長	大塚 晃司	
	教育主幹	河内 慶太	
	教育主査	渡邊 旬	
高校教育課指導第 2 班	班長	向中野 真記	
	教育主幹	片井 伴浩	
	教育主幹	平尾 順哉	
	教育主幹	山口 亮祐	
	教育主幹	朝比奈 玲子	

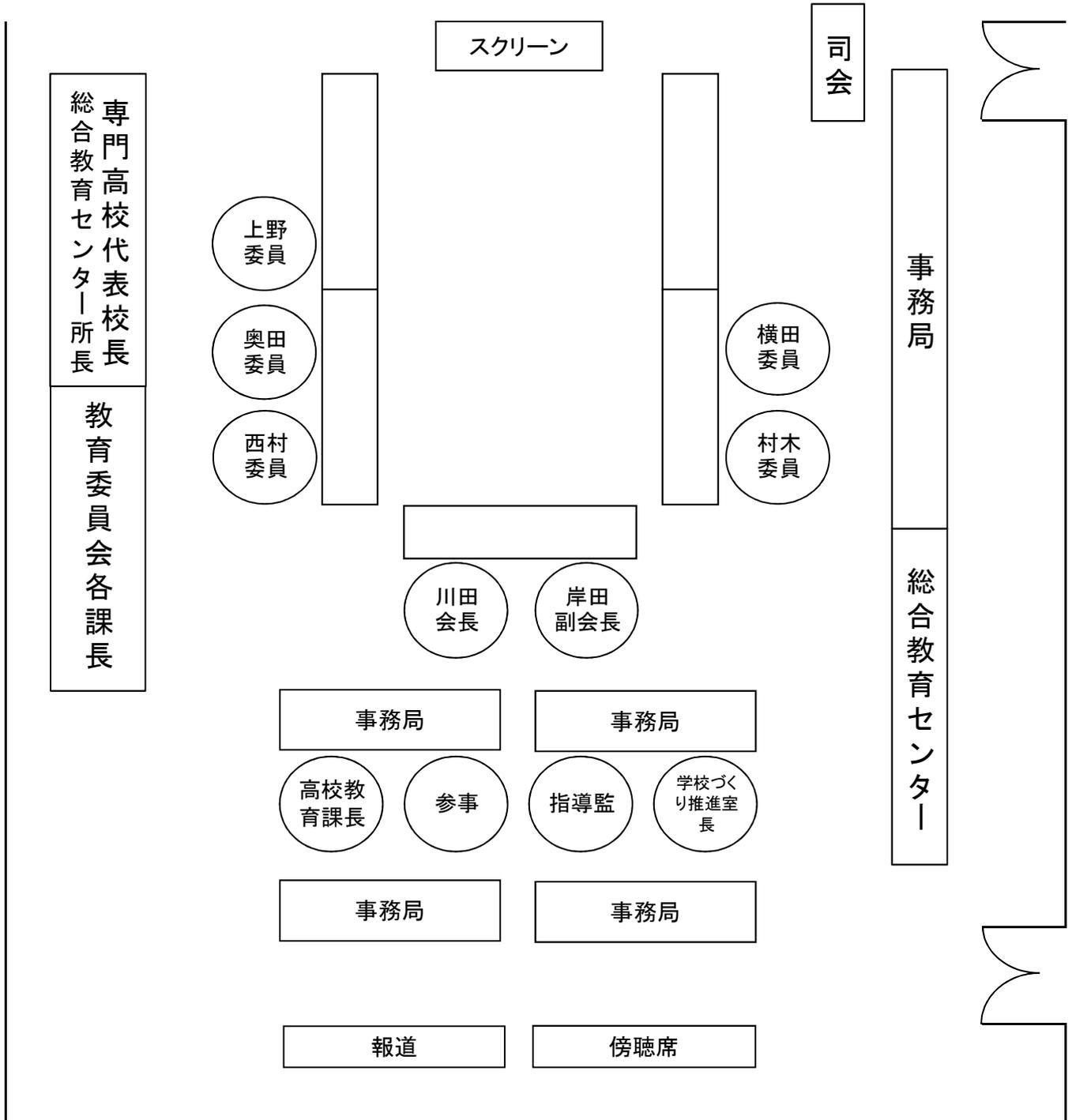
総合教育センター

所属	職名	氏名	備考
県総合教育センター	所長	持山 育央	
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	班長	鈴木 俊士	工業部会
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	教育主幹	福岡 亜紀枝	家庭・福祉部会
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	教育主査	杉山 暢啓	商業部会
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	教育主査	山下 高充	農業・水産部会

令和7年度 第4回静岡県産業教育審議会 座席表

日時 令和7年9月5日(金)午後2時～4時

場所 静岡県男女共同参画センター501会議室



1 育成したい生徒像

- ・柱となる専門性を身につけた人材
- ・基礎知識・技術（アナログ）に裏付けられた問題解決力と応用力（デジタル化）を有する人材
- ・高校レベルのデジタルテラシーを備え、実践的に活用できる能力を持つ人材
- ・DX化やAI、ビッグデータなど最新技術について理解している人材
- ・課題を発見し、解決策を導き出す資質・能力に優れた人材
- ・生産から提供までの全体像を把握し、経営的視点も持つゼネラリスト
- ・将来的に会社経営や起業に意欲とビジョンを持ち、ジョブ型雇用にも対応できる人材
- ・コミュニケーションスキル、チャレンジ精神など豊かな人間性も兼ね備える人材
- ・多人数協働による社会的能力や協調性が高く、多様な産業ニーズに柔軟に対応できる適応力を持った人材
- ・静岡県や地域産業への愛着と誇りを持ち、自律的に学び続けることができる人材
- ・多角的な視野と多文化への理解力を持ち、多様な価値観に対応できる柔軟性のあるグローバル人材

2 育成したい生徒像に必要な学びの方向性

- ・専門教育の基礎知識・技術の習得
- ・学校だけではなく外部リソースや地域企業との連携・コーディネーターの活用による実践的教育の推進
- ・大学連携による高度専門教育等における大学コンソーシアムの活用
- ・DX化やデジタルリテラシーの基礎知識習得（AI、通信技術、データ分析等）とともに、それらを使いこなす思考力・判断力の涵養
- ・地域産業や企業の視点・知識・技術・価値観を取り入れた深い学びと実践活動
- ・商業×工業など異分野連携による経営視点を養う学び
- ・地域特性・産業特性に根ざした専門分野とゼネラルスキルのバランスある育成（静岡県内各地域の特色ある産業への対応と地域愛）
- ・福祉など多様な主体との共同学習やアウトプット機会（例：小中学生への指導）を通じて広範な経験と実践的教育
- ・自己理解と自己啓発につながるキャリア教育、自分自身の強み弱みの把握と好奇心喚起による継続的学習意欲の促進
- ・持続可能性（サステナビリティ）や環境変化への適応能力も重要視し、多角的かつ総合的な教養教育
- ・教員の資質向上も不可欠であり、最新技術の指導法や探究型授業展開について研修を充実させることで、生徒主体型・自主性重視の教育環境づくりを推進する
- ・デジタルネイティブの教員が主導する研修機会の創出（デジタル研修 等）

※産業教育を活用した、普通科等のキャリア教育の推進

これまでの3回の審議会より、静岡県の専門高校等で「育成したい生徒像」とその育成に必要な学び（方向性）が明確になった（資料4）。これらを具現化するために、次の論点について御意見をいただきたい。

論点1

「育成したい生徒像」に必要な学び（方向性）が明確となったことを受けて、それぞれの属性を整理した（資料5）。これらについて、過去3回の審議会を振り返り、属性と内容について御意見をいただきたい。

論点2

「育成したい生徒像」、「育成したい生徒像に必要な学びの方向性」を踏まえ、「これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備」について、御意見をいただきたい。

- ・資料5下段は、検討の視点と「育成したい生徒像に必要な学びの方向性」の属性
- ・資料6は、本県の高校を取り巻く現状と課題
- ・資料7は、専門高校・専門学科の今後の在り方（案）

（1）魅力的な専門学科等の在り方（学科改善）

- ・柱となる専門教育の基礎知識・技術の習得
- ・地域産業や企業の視点・知識・技術・価値観を取り入れた深い学びと実践活動
- ・外部リソースや地域企業との連携・コーディネーターの活用による実践的教育の推進
- ・ジョブ型雇用にも対応できる最新で専門性の高い学びの展開

（2）少子化や地域産業を考慮した適正な専門高校等の整備（高校の再編整備）

- ・地域特性・産業特性に根ざした専門分野とゼネラルスキルとのバランス
- ・持続可能性や環境変化への適応能力の重視、多角的かつ総合的な教養教育の実践
- ・産業教育を活用した、普通科等のキャリア教育の推進
- ・商業×工業など異分野連携による経営的視点を養う学び
- ・最新技術の指導法や探究学習の授業展開など教員の資質向上は不可欠

資料5 第4回静岡県産業教育審議会

審議内容	検討の視点	育成したい生徒像	育成したい生徒像に必要な学び（方向性）
ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成	(1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応	<ul style="list-style-type: none"> 柱となる専門性を身につけた人材 基礎知識・技術（アナログ）に裏付けられた問題解決力と応用力（デジタル化）を有する人材 DX化やAI、ビッグデータなど最新技術について理解している人材 高校レベルのデジタルテラシーを備え、実践的に活用できる能力を持つ人材 課題を発見し、解決策を導き出す資質・能力に優れた人材 	<ul style="list-style-type: none"> 柱となる専門教育の基礎知識・技術の習得 DX化やデジタルリテラシーの基礎知識習得（AI、通信技術、データ分析等）とともに、それらを使いこなす思考力・判断力の涵養 外部リソースや地域企業との連携・コーディネーターの活用による実践的教育の推進 大学連携による高度専門教育等における大学コンソーシアムの活用 特別支援学校などの多様な主体との共同学習やアウトプット（例：小中学生への指導）を通じて広範な経験と実践的教育の推進
	(2) 教員の資質向上		<ul style="list-style-type: none"> 最新技術の指導法や探究型授業展開についての研修を充実させる 生徒主体型・自主性重視の教育環境づくりを推進する デジタルネイティブの教員が主導する研修機会の創出（デジタル研修等）
	(3) 施設・設備の整備		<ul style="list-style-type: none"> 先端機器に「触れる」、「体験する」機会の創出 安心・安全な施設・設備の整備
イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成	(1) 地域産業の継承と創造	<ul style="list-style-type: none"> 生産から提供までの全体像を把握し、経営的視点も持つゼネラリスト 静岡県や地域産業への愛着と誇りを持ち、自律的に学び続けることができる人材 多人数協働による社会的能力や協調性が高く、多様な産業ニーズに柔軟に対応できる適応力を持った人材 	<ul style="list-style-type: none"> 地域産業や企業の視点・知識・技術・価値観を取り入れた深い学びと実践活動 地域特性・産業特性に根ざした専門分野とゼネラルスキルのバランスある育成（静岡県内各地域の特色ある産業への対応と地域愛） 持続可能性（サステナビリティ）や環境変化への適応能力も重要視し、多角的かつ総合的な教養教育 産業教育を活用した、普通科等のキャリア教育の推進
	(2) 起業家精神と経営感覚の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に会社経営や起業に意欲とビジョンを持ち、ジョブ型雇用にも対応できる人材 コミュニケーションスキル、チャレンジ精神など豊かな人間性も兼ね備える人材 	<ul style="list-style-type: none"> 商業×工業など異分野連携による経営的視点を養う学び 自己理解につながるキャリア教育、自分自身の強み弱みの把握と好奇心の喚起による継続的学習意欲の促進
	(3) グローバル化への対応	<ul style="list-style-type: none"> 多角的な視野と多文化への理解力を持ち、多様な価値観に対応できる柔軟性のあるグローバル人材 	<ul style="list-style-type: none"> 世界を視野に入れた専門分野の学び 異文化体験（外国の文化やビジネス環境の体験等）と多様性のある環境（外国人学校、特別支援学校等）での学習

審議内容	検討の視点	育成したい生徒像に必要な学び（方向性）※抜粋	具現化例
ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備	(1) 魅力的な専門学科等の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 柱となる専門教育の基礎知識・技術の習得 地域産業や企業の視点・知識・技術・価値観を取り入れた深い学びと実践活動 外部リソースや地域企業との連携・コーディネーターの活用による実践的教育の推進 ジョブ型雇用にも対応できる最新で専門性の高い学びの展開 	
	(2) 少子化や地域産業を考慮した適正な専門高校等の整備	<ul style="list-style-type: none"> 地域特性・産業特性に根ざした専門分野とゼネラルスキルとのバランス 持続可能性や環境変化への適応能力の重視、多角的かつ総合的な教養教育の実践 産業教育を活用した、普通科等のキャリア教育の推進 商業×工業など異分野連携による経営的視点を養う学び 最新技術の指導法や探究学習の授業展開など教員の資質向上は不可欠 	

本県の高校を取り巻く現状と課題

- ・ 中学校卒業生数の更なる減少 (R6 : 31,818 人 → R20 : 20,120 人、37%減少)
- ・ 今後、全ての公立高校で小規模校化が進行し、効果的な学びを実現する適正規模※ (1 学年 6 ~ 8 学級) を確保できない (全日制 (90 校) : 平均 4.84 学級)

※適正規模：教育効果を高める効率的な資源投入や、公教育に求められる学びの機会を保障する観点から、本県では「1 学年の定員が 240 人から 320 人」を基本的な学校規模としている

- ・ 生徒数の減少により単独学科による専門高校の維持が困難 (単独校 : 17 校 / 90 校、19%)

【参考】 県内の単独学科による専門高校の配置 (令和 7 年度)

	東部	中部	西部
農業科 (4 校)	田方農業 (5) 南伊豆分校 (1)	静岡農業 (5)	磐田農業 (5)
工業科 (7 校)	沼津工業 (5) 吉原工業 (4)	科学技術 (8) 島田工業 (5)	掛川工業 (4) 浜松工業 (9) 浜松城北工業 (6)
商業科 (5 校)	沼津商業 (4)	静岡商業 (5) 島田商業 (4)	袋井商業 (3) 浜松商業 (8)
水産科 (1 校)	—	焼津水産 (5)	—

・ 家庭科と福祉科の単独校はなし。科学技術高校は理数科 (1 学級) を含む。 () の数字は学級数

- ・ 産業人材の育成に向けた職業教育の更なる推進が必要 (地元産業や企業に関する知識・理解、専門性の高い学び、地元企業に就職するマインド育成など)
→ 高校、大学、専門学校等を卒業した後、地元で働きたいと思う高校生 (2 年) の割合 (卒業後は地元やその周辺で働きたい : 14.5%、卒業後は県内で働きたい 20.9%、県外又は地元にはこだわらない : 28.0%、現時点では未定 : 36.0% (R5~7 調査結果))
- ・ 専門高校・専門学科からの就職希望者だけでは産業人材が足りない
→ 正社員の人手不足を感じている県内企業の割合 : 46.0% (帝国データバンク静岡支店 R7.5.30)
(業種別 : 建設 71.1%、製造 43.8%、卸売 26.5%、小売 40.0%、運輸・倉庫 61.9%、サービス 52.5%)
- ・ 地域からは専門高校・専門学科への期待が高いが、中学生 (3 年) や保護者からは普通科高校の学びのニーズが高い (普通科志向 : 中学生 70.5%、保護者 63.1% (R5~7 調査結果))
(専門学科志向 : 中学生 11.5%、保護者 8.9% 総合学科志向 : 中学生 15.2%、保護者 25.1%)
- ・ 専門高校・専門学科の魅力が十分に生徒、保護者、中学校 (教員) に伝わっていない (学びのイメージが古い、進学できないなど)
→ 進路選択時に専門学科の特色ある学びが正しく伝わっていない可能性がある

(1) 魅力的な専門学科等の在り方

方向性の例	具体的な内容例
積極的な 学科改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の変化やニーズに対応した新しい学びや取組を学科の教育課程に反映する (学科のフルモデルチェンジ、マイナーチェンジ) ・ 企業や大学等との連携(専門技術や知識の習得、最新施設の活用等)による高度な研究を継続できる学科を展開する ・ それぞれの強みを活かした学科間・学校間の連携やつながりを強化し、高校の魅力化に向けた学科を検討する ・ 時代のニーズを捉えた学科名や分かりやすい学科名への改善
総合学科 の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合学科高校の小規模校化が進行し、効果的な学びが実現できる学校規模を確保できない場合は、時代の変化や地域のニーズに対応した選択科目や系列(教育内容)の見直しを行う、又は、他学科への改編を検討する

(2) 少子化や地域産業を考慮した適正な専門高校等の整備

整備例	具体的な内容例
普通科 × 専門学科	<p><展開例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通科の生徒に専門的な学びを提供するクロスカリキュラムを実施する ・ 探究学習のチーム編成において、普通科と専門学科の生徒を混成することで、学習の幅を広げる ・ 専門学科の生徒に対する普通科のノウハウを活かした進路支援を実現する <p><考え方>(進学後のUターンを視野に、普通科のキャリア教育の向上と専門教育を通じた地元企業の知識・理解の促進。探究的な学びと専門的な学びの融合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な学びの機会を確保するため、小規模普通科と小規模専門学科との再編整備を行う ・ 再編整備に際して、普通科高校の校舎へ学習の場が移る場合には、専門高校の施設・設備を実習施設として活用できるよう体制を整える ・ 新たに高校を設置する場合は、普通科と専門学科を併置、又は、普通科単位制高校として個別の学科を設置せず、生徒の興味・感心や個々の進路に合わせて多様な科目を学べるようにする
専門学科 × 専門学科	<p><展開例①(異なる専門学科の再編整備：専門A×専門Bの組み合わせ)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれ特色ある教育内容によって、多様な学びの組み合わせを可能にする ・ 学校規模の拡大により、幅広い専門性を確保し、学科横断的で質の高い学習を展開する <p><展開例②(同一の専門学科の再編整備：専門A×専門Aの組み合わせ)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同一学科を組み合わせることで、より専門性の高い分野の学びを提供する ・ 資源を集中的に投入することで、最新技術や機器を導入し、地域産業に適合した専門的な学習を広域に展開する <p><考え方>(多様な専門学科を設置し、中学生の域外流出を抑制。幅広い分野で学びのシナジー化を実現。充実した専門分野教員の確保と施設設備の集約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の生徒数の減少を踏まえ、専門高校間で再編整備を行う ・ 各校の強みや特色ある分野を一層発展させ、学習内容の充実を図る ・ 再編整備後は大規模校となるため、必要な教員数を確保でき、より多くの専門科目を設置することができる